



音楽は聞く人に元気をくれますね。

## 奏でる音とリズムが生み出すパワー マーチングと吹奏楽のコンサート

1月24日(日)に県内の小中高、9校が文化会館フォルテに集まり、第24回石川県マーチングバンドカーニバルと第6回クロスオーバーコンサートが開催されました。第1部のマーチング・バトン部門、第2部のコンサート部門を完全入替制にするなど新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じることで実施にこぎ着けました。演奏機会が減少している中でのステージとあって各校、熱い思いのこもったパフォーマンスを披露し、観客を魅了していました。

## ごきげんな大人が集うまちへ！ まち×ひと×コト アカデミー

にぎわいの里ののいち カミーノで2月10日(水)、雑誌『ソトコト』編集長の指出氏を講師に招き、「まち×ひと×コト アカデミー」の第2回目となるセミナーを開催しました。まちを幸せにするための関係人口づくりをテーマに、野々市に住む人とソーシャルなコトを通してつながり、関わりを楽しむまちづくりを目指します。『ブックマンション』などのユニークな事例が多々紹介され、「関係人口とは弱さの交換だ」との指出氏の言葉に、約90人の参加者は熱心に聞き入っていました。



ウミネコバーラーの足立氏と(右)マックユニオンの松尾氏も登壇。



節分が2月2日なのは124年ぶりですが、4年後も2日だそうです。

## 鬼は外！福は内！ 節分のおはなし

2月3日(水)、中央児童館で未就園児親子を対象に「節分のおはなし」が開催され、親子21組が参加しました。初めに、心の中の鬼を追い払う「泣き虫鬼とおこりんぼ鬼」というテーブルシアターを観賞。その後は中央児童館の皆さんが鬼に変身し、「鬼のパンツ」のメロディに合わせて子どもたちと一緒にダンスを楽しみました。豆まきは感染症対策のため残念ながら中止となりましたが、最後は豆代わりのお菓子の小袋を配布。参加者は、節分気分を存分に味わいました。



治療や予防に加え、パフォーマンスが向上する巻き方も。奥深い。

## 自分で出来るテーピング 応急手当講座

1月29日(金)、応急手当講座が市民体育館で開催され、市民8人が参加しました。通常は2人組で互いをテーピングして練習しますが、感染症対策のため今回は「自分でできるテーピング」がテーマ。講師に和田接骨院の和田孝之院長を招きセルフテーピングを学びました。講座では、けがの程度と固定期間の関係、使うテープの種類、体の部位による締め付け方の違いを教わりながら指・ひじ・足首などを実際にテーピング。参加者は「家でもぜひやってみたい」と話しました。

# まちの話題 FOCUS

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。  
市民協働課 ☎227-6056

## 地元発の取り組みが受賞！

### 北国街道野々市の市 国土交通大臣表彰を受賞

地域の持つ資源を活用した優れた活動<sup>ふるさと</sup>に与えられる国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」に北国街道野々市の市が選ばれました。

歩行者天国となった本町通りの旧北国街道で、街道歩きを楽しむことができるこのイベントは、地元有志らによって平成23年にスタート。以来、野々市の秋の恒例行事として通りに賑わいを作り出しています。道路空間をうまく利用している点、運営に住民や企業、学生などさまざまな人が携わっている点などが評価されました。

北国街道野々市の市実行委員長の榎田彰久さんは、「市制施行に向けて地域を盛り上げたい、通りの賑わいを取り戻したいという気持ちでスタートした。野々市に伝わる文化や歴史が評価されたと思う。受賞を励みにこれからもまちを盛り上げていきたい」と喜びを語りました。



①2月9日(水)に認定証が授与されました。令和2年度は、全国で16団体が受賞②これまでの活動に触れながら喜びを語る榎田さん③国土交通省北陸地方整備局の職員に喜多家住宅と郷土資料館を案内し現地視察④以前行われた北国街道野々市の市の様子。地元特産品や飲食のテントが立ち並び、演奏や伝統芸能のステージなどさまざまな催しが行われます



一般的なピアノと比べ、鍵盤が低音部に9鍵多く97鍵もあります。

## ホールに響く皇帝の音色

### ベーゼンドルファーインペリアルを弾いてみよう！

文化会館フォルテが所有する“インペリアル(皇帝)”の称号を持つピアノ「ベーゼンドルファー model290」を大ホールで自由に弾ける恒例イベントが、1月16日(土)、17日(日)に行われました。このピアノは、県内のホールに2台しかない希少なもの。大きな響板と低音弦による豊かな音色に加え、長さ290cmにも及ぶ外観はまさに皇帝の風格です。コロナ禍で中止になった発表会の代わりにと申し込んだ参加者は「雰囲気もピアノの質も良くて、気分が上がり楽しかった」と話しました。

## あま〜いはちみつで広がる笑顔

### 知らずに損してる「はちみつのヒミツ」

普段何気なく食べているけど、実はよく知らない「はちみつ」をテーマに、1月16日(土)、富奥公民館で講座が開催され、富奥地区の20人が参加しました。自ら養蜂・販売を行うしずく工房の餅木氏を講師に、はちみつの効果的な食べ方などさまざまな知識を学びました。食べ比べもあり、定番のアカシアの他、能登柿といった変わり種を含む8種類を味見。一口味わうごとに、「こんなに味が違うとはびっくり！」と驚きと感動の声があがっていました。



一匹のハチが生涯で集めるはちみつはティースプーン一杯分だそうです。